

第 13 回

宝塚混声合唱団音楽会



2001年7月7日(土) 開演6:00 P.M

宝塚ベガホール

主催：宝塚混声合唱団

後援：宝塚市、宝塚市教育委員会

宝塚市文化振興財団、宝塚合唱連盟

プログラム

VIA CRUCIS

十字架の道

リスト作曲

指揮 大森 地塩

ピアノ 山本 京子

マドリガーレ

モンテヴェルディ 作曲

指揮 大森 地塩

Ohimè ! Se tanto amate
A' un giro sol
Non più guerra ! Pietate !
Sovra tenere herbette
Ond'ei, di morte

ああ、愛する人よ
美しい明るい眼差し
戦いはない
柔らかい草と白い花
そこで彼は死んだように言う

休憩

木と鳥のエピグラム

木村嘉長 詩 別宮貞雄 作曲

指揮 大森 地塩

木は鳥に
愛の渴き
羽ばたけ
鳥葬
生きる証し

ピアノ 國井 美佐

Neue Liebeslieder 新しい愛のワルツ

ブラームス作曲

- | | |
|-----------------------------------|--------------|
| 1. Verzicht, o Herz, auf Rettung | 救われるとは思うまい |
| 2. Finstere Schatten der Nacht | なんと真暗な夜 |
| 3. An jeder Hand die Finger | 指輪で両手の指を |
| 4. Ihr schwarzen Augen | 黒き瞳よ |
| 5. Wahre, deinen Sohn, | 汝の息子を守れ |
| 6. Rosen steckt mir an die Mutter | 母にバラの花をさせよ |
| 7. Vom Gebirge Well auf Well | 山から山へ |
| 8. Weiche Grässer im Revier | 山林の柔い草地 |
| 9. Nagen am Herzen fühl ich | 心に害毒を感じる |
| 10. Ich kose süß mit der | やさしく女の御機嫌をとり |
| 11. Alles, alles in den Wind | すべては無駄口 |
| 12. Schwarzes Wald | 黒き森よ |
| 13. Nein, Geliebter | いけません愛しき人よ |
| 14. Flammenauge, dunkles Haar, | 輝く瞳、真黒の髪 |
| Zum Schluß | 結び |

ソプラノ 津山 和代
アルト 野間 直子
指揮 大森 地塩
ピアノ 山本 京子
村田 朋子

ご あ い さ つ

本日は宝塚混声合唱団第13回音楽会へお運びいただきまして、誠にありがとうございます。

今回のプログラムは、モンテヴェルディのマドリガーレ、ブラームス「新・愛の歌」、リスト「十字架の道」及び別宮貞雄「木と鳥のエピグラム」です。モンテヴェルディとブラームスは前回の音楽会で歌った曲の続編とも言えます。この二曲にリストと別宮曲となると、これほど色合いのことなる曲の組み合わせで音楽会を構成するのは、わたしどもの音楽会としては稀有のことです。練習ではこれらの曲をだいたいまんべんなく取り上げるのですが、一つの曲から別の曲に移るとき、それぞれの曲の持つ世界の違いがくっきりと現れて、新鮮な驚きを感じるのが常でした。このような贅沢をさせていただきながら、今日の日を迎えました。

合唱は、発声を基本に、歌詞との交感があり、そして指揮者と一体になった歌作りがあってこそ、聴いてくださる方々と感動を共にするような歌を歌うことができるのだと思います。この点、わたしどもの取り組み方を振返ってみますとまだまだ努力の余地があるのですが、今回もいっくら前へ進んでいると聴いていただけるような演奏ができることを願っています。

お聴き苦しいところが多々あるかと存じますが、いっそう研鑽に励んでまいりますので、この後ご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成13年7月 宝塚混声合唱団

曲 と 歌詞

Via crucis 十字架の道

Franz Liszt

ピアノの作曲・演奏で全ヨーロッパを魅了したリスト(1811-86)は交響詩などで管弦楽の作曲に新境地を開いたが、60年代以後は宗教音楽の作曲も多く、65年には聖職者の資格を得ている。

この曲は二つの十字架賛歌で始まり、次いで「十字架の道の14の留(りゅう)」*がピアノ(またはオルガン)独奏、新約聖書の引用、二つのドイツコラール、聖母賛歌(スタバト・マーテル)などで構成されている。曲は彼の生前は演奏されず、1879年完成の50年後のブダペストで初演された。

賛歌はグレゴリオ聖歌の旋律から作曲され、深い味わいがあり、コラールは受難のイエスへの強い悲しみを示す。そしてピアノ独奏は、十字架の道行きの幾つかの場面(留)を象徴的に描き出し、その和声は進歩的で次の時代を指し示しており、半音階の旋律(リストの業績の一つ)は深い悲しみや畏敬の念などを思わせる。

(* 教会の中で信者が一つずつ留まってキリストの受難を黙想する14の十字架で、下記の14場面を示す)

Vexilla regis prodeunt, fulget crucis mysterium,
qua vita mortem pertulit
et morte vitam protulit. Impleti sunt, quae
concinit David fideli carmine dicendo nationibus,
regnabit a ligno Deus. Amen.

O crux, ave, spes unica,
hoc passionis tempore piis adauge gratiam,
reisque dele crimina. Amen.

王の旗はひるがえる 輝くよ十字架の神秘は
それにより生は死をもたらし
死によって生が与えられた ダビデが真実の詩で
歌ったことは実現された それは万民に告げている
神が(十字架の)木でもって支配されたと 確かに
おお十字架 めでたし ただ一つの希望よ
この受難週に信心深い人には恵みを加えてください
罪人にも罪を許してください 確かに

留 I イエス死罪になる (ピアノ曲・独唱)

Pilatus: Innocens ego sum a sanguine
justi hujus.

(バス) ピラト:「この人の血について わたしには

責任がない」 (新約聖書新共同訳)

留 II イエス自分の十字架を運ぶ (ピアノ曲・独唱)

Ave, ave crux! (バリトン) めでたし 十字架!

(留 III) *Stabat mater dolorosa juxta crucem
lacrymosa, dum pendebat filius.*

留 IV イエス聖母に出会う (ピアノ曲)

留 V キレネのシモン十字架を運ぶイエスを助ける (ピアノ曲)

留 VI 聖ペロニカ (イエスの血と汗を拭った聖女) (合唱)

O Haupt voll Blut und Wunden,

voll Schmerz und voller Hohn!

Haupt, zum Spott gebunden mit einer Dornenkrone!

O Haupt, sonst schön gezieret

mit höchster Ehr und Zier, jetzt aber höchst

beschimpfet, begrüßet seist du mir!

留 VII イエス再び倒れる

(歌詞・構成はⅢと同じ)

留 VIII エルサレムの娘たち (ピアノ曲・独唱)

*Nolite flere super me,
sed super vos ipsas flete
et super filios vestros.*

(バリトン) (娘たちに) 「わたしのために泣くな
むしろ自分と自分の子供たち
のために泣け」 (新共同訳)

留 IX イエス三度倒れる (歌詞・構成はⅢと同じ)

留 X イエス衣服を脱がされる (ピアノ曲)

留 XI イエス十字架に打ちつけられる (合唱)

Crucifige,

(群衆) 「十字架につけろ」

(新共同訳)

留 XII イエス十字架で死ぬ (独唱・合唱)

Eli Eli lamma Sabacthani

(バリトン) 「わが神、わが神、なぜ私をお見捨てになったのですか」

In manus tuas commendo spiritum meum.

「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます」

Consummatum est.

「成し遂げられた」

(新共同訳)

O Traurigkeit, O Herzeleid, ist das nicht
zu beklagen? Gott des Vaters einigs Kind
wird ins Grab getragen.

(合唱) おお なんと悲しいことか おお なんと心痛むことか
これが嘆き悲しまないでおられようか 父なる神の
ひとり子は墓へ運ばれる (ドイツコラール)

留 XIII イエス十字架から降ろされる

留 XIV イエス墓に葬られる (メゾ・ソプラノ独唱・合唱)

(ピアノ曲)

*Ave crux, spes unica, mundi
salus et gloria, auge piis
justitiam. Reisque dona
veniam! Amen. Ave crux!*

めでたし十字架よ それはただ一つの希望
世の救いと栄え 信心深い者には更に神の義
を与えてください そして罪人にも許しを与
えてください 確かに めでたし十字架!

解説と歌詞の訳 B 長尾 精

モンテヴェルディ (Monteverdi) とマドリガーレ (Madrigale)

1. クラウディオ・モンテヴェルディ(1567—1643) は、北イタリアのクレモナに生まれた。彼はルネッサンスからバロックへの音楽技法の転換期にあつて、ルネッサンスの伝統的な音楽書法から出発しながら、自らの創作の過程においてバロックの表現の世界を開拓するという偉業を果たした作曲家である。

彼はクレモナ大聖堂の楽長であつたインジェニエーリに師事し、その指導の下で豊かな才能を育んでいった。1582年15歳のとき、早くも「3声のモテット集」を出版し、1605年には「マドリガーレ集」第5巻を出版した。この第5巻は第3巻と共に大ヒットし、いずれも8回の復版をみたという。彼はまた「オルフェオ」や「アリアンナ」などのオペラの作曲家として有名である。

2. マドリガーレは、イタリアで起こった世俗的な多声部歌曲の形式であり、これには二つのタイプがある。その一つは14世紀の田園的な恋歌(パストウレル)に基づく2声から多声部のマドリガーレであり、今一つは16

世紀のマドリガーレで、15—16 世紀の北イタリアのプロットーラという歌曲形式から発展したもので、14 世紀のものとは関連がない。この 16 世紀のマドリガーレは、時代を追って発展したが、モンテヴェルディの作品は、1580—1620 年頃のポリフォニーによる様式的完成期のものである。

今回の演奏会で取り上げられるのは、モンテヴェルディの「5 声のための 12 のマドリガーレ (C・F・Peters 版) メンデルスゾーン編」からの次の 5 曲である。

II. ああ、愛する人よ III. 美しく明るい眼差し V. 戦いはない (以上第 4 巻 1603)

VI. 柔らかい草と白い花 IX. そこで彼は死んだように言う (以上第 3 巻 1592)

いずれも第 3—4 巻のものであり、モンテヴェルディの作品のなかでは、伝統的なルネッサンス様式に拠ったものであり、言葉の抑揚を旋律の動きに微妙に反映させようとし、楽譜をみたときの視覚印象に訴える工夫をしている。

マドリガーレ歌詞対訳

Ohimè! Se tanto amate
Di sentir dir ohimè,
Deh! Perche fate Chi dice „Ohimè“ morire?
S'io moro, un sol potrete
Languido e doloroso Ohimè sentire;
Ma, se, cor mio! volete,
Che vita habbia da voi, e voi da me, havrete
Mille dolci Ohimè!

ああ! もし “ああ” というのを、あれほど
聞きたいと望んでいるのなら
どうして、あなたは “ああ” と嘆いている者を殺すのだろう?
もし私が死ねば、あなたはたった一人となり
やつれて、痛ましい “ああ” の嘆きを聞くだろう;
でも私の愛する人よ、もしも私があなたから生命をうけ、
あなたが私から生命を得るのを望むのなら、
何千回となく “ああ” というやさしい声を聞くにちがいない。

A'un giro sol de bell' occhi lucenti Ride l'aria d'intorno,
E'l mar s'acqueta e i venti,
E si fa il ciel d'un altro lume adorno.
Sol io le luci ho lagrimose e meste.
Certo! Quando nasceste
Cosi crudeleria,
Nacque la morte mia!

美しく明るい比類のない眼差しに、まわりの大気は輝きを増す。
海も風も静かになる。
そして空は新しい明かりで飾られる。
ただ私だけは涙ぐみ、悲しむ。
たしかに、あなたが、こんなにも私をきびしくせめる時、
あなたは、私を死に追いやるだろうから!

Non più guerra! Pietate!
Occhi miei belli! Occhi miei trionfanti!
A che v'armate?
Contr' un cor, che già preso e vi si rende!
Ancidete i rubelli! Ancidete chi s'arm' e si difende,
Non chi vinto v'adora!
Volete voi, ch'io mora, Morò pur vostro;
E del morire l'affanno sentirò. Sì!
Ma sarà vostro il danno.

戦いはもう沢山だ! あわれんでくれ!
あなたの美しい目! 勝ち誇った目!
あなたは誰に対して、備えるのだ?
すでに打ち負かされて、また戻ってきた恋人に対してだ!
反逆者を殺すのだ! 武装し、防衛する者を殺すのだ!
あなたを熱愛する敗者を殺すのではない!
あなたが私の死を望むなら、私はあなたを殺すだろう!
そして私は死の苦しみを感ずる、その通り!
しかし、あなたも損なわれるだろう。

Sovra tenere herbetto e bianchi fiori
Stava Filli, sedendo
Nell' ombra d'un alloro,
Quando li dissi: Cara Filli! Io moro.
Ed ella a me volgendo
Vergogno setta il viso

柔らかい草と白い花の傍に、
スタヴァ・フィリは座る。
月桂樹の蔭で、
愛するフィリー! と云った時、私は死ぬ。
そして彼女は私の方に向かって、
恥ずかしさであかく染まった顔を見せ、

Frenò frangendo fra le rose il riso,
Che per gioia del core
Credde ne trass' amore.
Onde lieta mi disse: Bacia mi Tirsi!
Che per desir sento morir mi anch' io.

Ond' ei, di morte La sua faccia impressa, disse:
Ahi! Come n'andrò senz' il mio sole
Di martir in martir, Di doglie in doglie!
Ed ella, da singhiozz' e piant' oppressa
Fievolmente formò queste parole:
Deh! Cara anima mia, Chi mi ti toglie?

ばらの花束の後ろでほほえみをもらした。
それは心からの喜びによって、
愛が湧き出しているようにみえた。
そこで私に嬉しそうに云った！私のティルシ！愛のキスを！
私も欲望で、死にそうに感じたのだ。

そこで彼は死んだように、青白い顔で続けて云った：
ああ！ 君という私の太陽なしでは、
いかに私が苦悩から苦悩へ、責苦から責苦へと向かうことだろう！
そして彼女は声をひそめてすすり泣き、
むせび泣き、力なく、こう云う！

ああ！ 私の愛する人、誰が、私からあなたを奪うでしょうか！
解説と歌詞の訳 B 森 恒夫

木と鳥のエピグラム

木 村 嘉 長 詩 別 宮 貞 雄 曲

邦人曲は、歌詞が日本語であるにもかかわらず、西洋の曲にくらべて取っつきにくいと感じるのがこれまでの常である。私たちが歌う西洋の曲は古典曲が多いのに対して、邦人曲は現代曲であるためであろう。ところが、曲が仕上るにつれて、感じ方が違ってくることに気づかされる。ブラームスの音楽はドイツ民族の音楽だという言葉聞いたが、そうであるなら、邦人曲は日本民族の音楽であるがゆえに、私たちの感応が自ずと異なってくるのであろう。その上で、優れた音楽には普遍性がある。

この曲が作曲・初演された 1980 年代、日本は国土のいたるところで山を崩し木を切り倒すことに我を忘れていた。その後、自然破壊は地球規模で進み、人類の将来を不確かなものにしている。この曲のもつ日本の風韻を私たちは楽しんで歌う。だが、私たちの歌が心地よさに止まらない力を持つものであつて欲しい。

B 井上 喜光

I 木は鳥に

木は鳥にささやき	鳥は木にささやく
木は鳥を愛し	鳥は木を愛した
愛はしたたる水のように	まぶしく光る
だがこの静けさは	長くはなかった
ふいに思わぬものが襲いかかる	
つぶされる愛の卵	うばわれる地球の夢
木と鳥のむれは	人に見えない血を流した

II 愛の渇き

地に落ちる一羽の鳥の	肌のぬくもり
ざわめく森よ	眼に涙をためた鳥の
死をなげく	哀れみを知らぬ人は
冷酷な笑いを投げかける	
木は鳥を愛している	鳥は木を愛している
日は暗くおびえ	星は遠くまたたく
愛は渇き	愛に飢える愛

III 羽ばたけ

一本の木から	鳥のむれが
花火のように舞いあがった	鳥が飛んだ……
鳥の世界は空だ	木は高く空をささえる
鳥が飛んだ	
燃える愛は	鳥のように羽ばたけ
花火のように舞いあがれ	鳥の世界は空だ
鳥が飛んだ……	あしたは曇りのち晴れだ

IV 鳥葬

木がかなしめば	鳥は木をなぐさめる
鳥がかなしめば	木は鳥をなぐさめる
なぜ人は	われを忘れて争うのか
木も	鳥も
人のいけにえになり	割れたざくろの実が
夜空を仰ぐ	
けれど人にもやがて	死が訪れる
吹き荒ぶ風が	死に絶え
人の亡骸は	逆らう鳥の
餌食になって	葬られてしまうのだ

V 生きる証し

木が立ちあがる 鳥が木のまわりを飛ぶ
人が人を愛する愛は ころの底ににがく残り
流れる川は逃れるように遠ざかる
ああ伐られた木がうめく
ああ射たれた鳥が叫ぶ

木とともにあるよろこび
鳥とともにあるよろこび
火をともに祈るとき
語りかけてくる小さないのち

木と鳥はたのしげにたわむれる
さすらい人はどこへゆくのか
よみがえるわたしの愛
この愛の証しにわたしは生きる

人が人を愛する愛は ころの底ににがく残り
茨の棘にさされた指がふるえる
木に宿る神の近くに
鳥はいとなみの巣をつくりはじめた

Neue Liebeslieder 新・愛の歌

Johannes Brahms

ブラームス(1833 - 97) はドイツレクイエム完成の翌 1869 年に「愛の歌」18 曲を、74 年にこの曲を完成させている。「愛の歌」と同じく 3/4 拍子(終曲 9/4 拍子)で、彼の第二の故郷ウィーンは当時 3 拍子のワルツが盛んになっていた。歌詞も同じく G.F.Daumer によるが終曲だけはゲーテの詩を使っている。

曲では合唱の多くは生き生きと、独唱は大抵優しくあるいは表情豊かにと記されている。

二人で弾くピアノは伴奏というより独立した性格が強く、70 年「愛の歌」初演ではブラームス自身とクララ・シューマン(シューマン夫人)が弾いた。

曲は愛の様々な姿を真つすぐ見つめて、激しく、明るく、あるいは優美に、時には切々と歌いあげ、終曲は愛の幸せと嘆きを通り抜け、静かな心境に達して全曲が締め括られる。

B 長尾 精

1. Verzicht, o Herz, auf Rettung, 救われるとは思うまい(合唱)

Verzicht, o Herz, auf Rettung, dich wagend in der Liebe Meer! Denn tausend Nachen schwimmen zertrümmert am Gestad umher!	おお 心よ、救われるとは思うまい、 愛の海原に敢えて船出せし汝なのだ。 だって無数の小舟が打砕かれ、 あちこちの岸辺に 漂流しているではないか!
---	---

2. Finstere Schatten der Nacht なんと真つ暗な夜(合唱)

Finstere Schatten der Nacht, Wogen = und Wirbelgefahr! Sind wohl, die da gelind rasten auf sicherem Lande, euch zu begreifen im Stände? Das ist der nur allein, welcher auf wilder See stürmischer Öde treibt, Meilen entfernt vom Strande.	おお なんと真つ暗な夜だろう、 なんと危険な波浪・旋風だろう! その陸地に平穩に休んじる人々は、 汝らを十分に理解することができようか、 いや岸辺より幾マイルも離れて嵐の吹きすさぶ 荒涼たる海を渡る人だけが汝らをよく理解することが
--	--

3. An jeder Hand die Finger 指輪で両手の指を(ソプラノ独唱)

An jeder Hand die Finger hatt ich bedeckt mit Ringen, die mir geschenkt mein Bruder in seinem Liebessinn. Und einen nach dem andern gab ich dem schönen, aber unwürdigen Jüngling hin.	私は友達が愛のしるしに贈ってくれた指輪で 両手の指をいっぱいにしていた。 そしてそれを次から次と美しいが 不品行な若者にやってしまったのだ。
---	---

4. Ihr schwarzen Augen 黒き瞳よ(バス)

Ihr schwarzen Augen, ihr dürft nur winken, Paläste fallen und Städte sinken. Wie sollte stehn in solchem Strauss mein Herz, von Karten das schwache Haus?	黒き瞳よ、汝がウインクしさえすれば、 宮殿が倒れ、華やかな都市が衰微するのだ。 このような苦闘において、空中楼阁にもたとえられるべき 私の心が、どうして持ちこたえられる筈があろうか。
--	--

5. Wahre, deinen Sohn 汝の息子を守れ (アルト独唱)

Wahre, wahre deinen Sohn, Nachbarin, vor wehe.
Weil ich ihn mit schwarzem Aug zu bezaubern gehe,
O wie brennt das Auge mir, das zu zünden fodert!
Flammet ihm die Seele nicht, deine Hütte lodert.

隣人よ、汝の息子を悲哀から守りなさい。
私がこの黒い瞳で彼をまさに魅惑せんとしていますから。
おお なんと私の瞳は灼熱し燃えんばかりです。
彼の心が燃えなければ汝の茅屋が炎燃するでしょう。

6. Rosen steckt mir an die Mutter 母にバラの花をさせよ (ソプラノ独唱)

Rosen steckt mir an die Mutter,
weil ich gar so trübe bin.
Sie hat Recht, die Rose sinket,
so wie ich, entblättert hin.

私の母にバラの花をさして下さい。
私がこんなにも悄然としているのですから。
もったもです、バラは私のように
頭をたれ、花びらを落としていますから。

7. Vom Gebirge Well auf Well 山から山へと (合唱)

Vom Gebirge Well auf Well kommen Regengüsse,
und ich gäbe dir so gern hundert-tausend Küsse.

山から山へと大雨がやってくる。
そして私は汝に心から喜んで口吻を与えるのに。

8. Weiche Gräser im Revier 山林の柔らかい草地 (合唱)

Weiche Gräser im Revier,
schöne ,stille Plätzchen!
O wie linde ruht es hier
sich mit einem Schätzchen!

山林の柔らかい草地、
ここはなんと美しく静かな場所だろう。
愛しい人と共にいると、ここは
何と安らかに心が休まることであろう。

9. Nagen am Herzen fühl ich 心が害毒を感じる (ソプラノ独唱)

Nagen am Herzen fühl ich ein Gift mir,
kann sich ein Mädchen,ohne zu
fröhnen zärtlichem Hang,fassen
ein ganzes wonne-beraubtes Leben entlang?

私は私の心が害毒に蝕されるのを感じる。
一体少女というものは、やさしい愛情に
耽けられないでは喜びをうばわれた全生涯を通じて、
心を落ち着けることが出来るものであろうか。

10. Ich kose süß mit der やさしく女の御機嫌をとり (テナー)

Ich kose süß mit der und der
und werde still und kranke.
denn ewig ewig, kehrt zu dir,
o Nonna, mein Gedanke!

私はやさしく女性の御機嫌をとって、
それから黙りこくなり、遂には心苦しくなる。
というのは、おお ノンナよ、
いつまでも私の想いが汝に返ってくるのだ

11. Alles ,alles in den Wind すべては無駄口 (ソプラノ独唱)

Alles, alles in den Wind sagst du mir,
du Schmeichler!
Allesamt verloren sind deine Mühn, du Heuchler!
Einem andern Fang zu lieb stelle deine Falle!
denn du bist ein loser Dieb,
denn du buhlst um Alle!

汝が私に言っていることは、すべて無駄口です、
このおべっか使いさんよ。
汝の労苦はことごとく水の泡です、この偽善者さんよ。
他の獲物のために、汝のわなをかけなさい。
だって汝はだらしのない盗人で、
すべての人の愛を求めているのですから。

12. Schwarzer Wald 黒き森よ (合唱)

Schwarzer Wald, dein Schatten ist so düster!
Armes Herz, dein Leiden ist so drückend!
Was dir einzig wert, es steht vor Augen,
ewig untersagt ist Huld-vereinung!

黒き森よ、汝の樹蔭はなんと陰うつなことよ！
可哀想な愛しき人よ、汝の悩みは何と重苦しいのだろう。
明らかに汝にとって、大切な唯一のもの
である愛の結びつきは永久に禁ぜられているのだ。

13. Nein,Geliebter いけません愛しき人よ (ソプラノ独唱)

Nein, Geliebter, setze dich mir so nahe nicht!
Wie es auch im Busen brennt dämpfe deinen Trieb,
daß es nicht die Welt erkennt, wie wir uns so lieb.

いけません、愛しき人よ、そんなに私の近くに座っては、
どんなに心が燃えようとも、その衝動を和らげなさい。
私達がどんなに愛し合っているかを世間に隠すために。

1 4. Flammenauge,dunkles Haar 輝く瞳、真っ黒の髪 (合唱)

Flammenauge,dunkles Haar, knabe wonnig und verwogen.	輝く瞳、真っ黒の髪をし喜びに満ちた無鉄砲な子よ
Kummer ist durch dich hinein	汝によって、悲哀感私の
in mein armes Herz gezogen.	かわいそうな心に滲み込むのだ。
Kann in Eis der Sonne Brand, sich	太陽の熱が氷に、昼が夜に
in Nacht der Tag verkehren?	変わることがあるだろうか。
Kann die heisse Menschenbrust	熱烈な心情の持ち主が、熱情的な欲求を
atmen ohne Glut-begehren?	感じないで、呼吸することがあるだろうか。
Ist die Flur so voller Licht,	花がその光輝を失うほど、
dass die Blum im Dunkel stehe?	田畑が光に満ち溢れているだろうか。
Ist die Welt so voller Lust,	心が苦しみで朽ち果てるほど、
dass das Herz in Qual vergehe?	世間が喜びに満ちているであろうか。

Zum Schluss 結び (合唱)

Nun, ihr Musen, genug!	ミューズの神よ もう結構だ。
Vergebens strebt ihr zu schildern, wie sich	貴方らは徒に恋する人の心に、悲嘆と幸福が
Jammer und Glück wechseln in liebender Brust.	入れ代わる様を、描こうとするだけではないか。
Heilen könnet die Wunden ihr nicht,	貴方らには、恋愛の神の負わせた傷を、いやす
die Amor geschlagen, aber Linderung kommt	ことが出来ないではないか。ただ貴方達には
einzig, ihr Guten, von euch.	その傷を軽くすることしか出来ないのだ。

団員の声

♪ 「宝混」入団のきっかけは、あるメンバーとの仕事上のご縁からでした。小さなコーラスグループの活動経験はありましたが、これだけの規模の大合唱団は初体験。どんな時でもある程度の人数は揃うので、練習がお流れになることはありません。それだけでも感激ですが、大森先生の（おそらく周到に準備された）プログラムに沿った練習の充実感。この楽しみに惹かれて、大阪市内から通い続けて5年目に入りました。これまで、バッハのロ短調ミサやブラームスのドイツレクイエムなど大曲にも挑戦しましたが、何よりの楽しみは大森先生が見つけてきて下さる知られざる名曲・佳曲との出会い。今回もリストの宗教曲や別宮さんの「木と鳥のエピグラム」… …、ワクワクしています。

B 坂口 孝史

♪ 下の子が中学に上がったのを機会に、混声合唱への思いを押さえ切れずに入団以来20年。なかなか家を空け難い土曜の夜と日曜の午後の練習も、家族の協力を得ながら参加し続ける事が出来ました。歌いながらいつも、大きなハーモニーの中に自分の声が溶け込み、響き合うのを感じる時、ここに居ることが出来て本当に良かったと心の安らぎを覚えます。

宝塚市民音楽祭出場では、宝塚大劇場の大階段に立ち、オーケストラ伴奏で一流指揮者の指揮棒を一点に見つめて歌った幾度かの経験は、得難い思い出となって残っています。

その後の団の活動にいろいろ変遷はありましたが、現在は年一度の演奏会を中心として、またその他のステージで、幅広い分野の合唱曲を歌えるのが大きな喜びです。

合唱を通じて出会えた沢山のお友達と共に、これからも歌い続けたいと願っています。 A 平野 みさ子

♪ 「十字架の道」を歌うにあたって 熱心なカトリック信者の家で生まれ育った私にとって、幼少の頃から教会に行くことと朝晩にする祈りは食事と同じ位欠かせない生活の糧でした。復活の前の四旬節には必ず十字架の道行をしたものです。

教会の壁面に架かっている十四の絵の前で一留ごとにひざまずき、その場面の情景を思い起し、祈り乍ら黙想するのです。まだ純情だった私は苦しまれるキリストが可哀想で可哀想で涙が溢れて止まりませんでした。いつの頃からか忙しさにかまけて十字架の道行を怠っていた矢先、この曲に出会い、聞きおぼえのあるスタバトマーテルのメロディーが懐かしく胸によみ返ってきました。目の前で最愛の我が子が釘付けにされる聖母の悲しみはいかばかりだったでしょう。同じ母として今はその悲しみが痛い程わかります。私にとってはこの曲を歌うことが贖罪になる気さえるのです。そんな思いをこめて歌いたいと思います

S 飯田 早子

♪ 「人が人を愛する愛」 アルト・パート練習の時の事です。「人が人を愛する愛は」と唱っていました。「木と鳥のエピグラム」です。先生が「ひつとがひつとを」と聴こえたとおっしゃいました。唱い直しても同じです。「どう唱えばいいか考えなさい」と。私は「ひ」の後に棒を引きました。「ひーとがひーとを」です。それぞれが工夫して次はOKがでました。以前守山先生に習った時に、同じ四分音符でも同じではないと言われたのを思い出しました。子音は拍の前で唱うようにとも。これは三木稔先生のレクイエムを習った時、練習を聴きに來られた先生から「虫の声」を「うしのこゑ」に聴こえると注意を受けた事に当たります。

練習を重ねて詩の心を唱うのは勿論大事ですが、大勢で唱うコーラスではテクニックも亦大切ではないかと思っています。優れた指導者について唱える幸せを感じる今日この頃です。

A 廣河 澄子

♪ 今回も色々と言葉の異なる曲を懸命に稽古しました。

でも、日本語の曲がこれほど難しいとは思いませんでした。今までにも唱いましたが、木と鳥のエピグラムは私にとって忘れられない曲となりました。4番の詩と曲は大森先生のご指導に少しでも近付きたいと願い、練習が重なる度に歌っている内に涙が溢れて次の小節が声にならなくて困ってしまうほ程の感動を受けいつもこの曲になると涙しています。自然界の損失を考えなければいけない時期に意義の有る選曲だったかしらと思い又この素晴らしさを皆様にお伝え出来る様にと今日を迎えました。

A 香本 侃代

♪ 多くの方々のお力添えに感謝しながら、歌えることに喜びを感じています。

誰彼なくこの喜びを分かち合はねばならないし、妻や、ご指導いただいている大森先生、伴奏の先生方、団の管理運営にご尽力いただいている役員の方々に感謝しなければならないと常々思っております。

この喜びを分かち合い、感謝の気持ちをお返しするためには、ご指導いただいたことを力一杯ステージで表現し、高らかに歌いあげ、お聴きいただく皆様方と、曲の持つ『心』と『感動』を共有し、感動の余韻を引きずるような合唱を、そして大森先生は勿論のこと、伴奏の先生方や宝塚混声合唱団の『名誉』を守るための団員の努力の結晶を、どうぞ心静かに聴きくだされば幸いです。

B 大賀 允

♪ 今日の音楽会にモンテヴェルディ、リスト、ブラームス、そして日本の曲を歌いますが、すべて美しい曲です。美しい曲を作曲した人々のことを少し書いてみました。モンテヴェルディ(1567年 - 1643年)はイタリアのオペラ初期の作曲者でバッハ、ヘンデルより以前の人でたくさんの作品を残し、マドリガーレ、教会音楽、ミサ曲などがあります。リスト(1811年 - 1886年)はハンガリーに生まれ6才でピアノを習い16才で全ヨーロッパの話題となりました。晩年は僧衣をまとい慈善のためにのみ弾いたといわれています。15曲の「ハンガリア狂詩曲」「愛の夢」「ラ・カンパネラ(鐘)」などのピアノ曲は有名です。ブラームスは(1833年 - 1897年)ドイツのハンブルクに生まれ、バッハ、ベートーベンと共に三大Bの一人に数えられています。古典的な香り、シューマンと共鳴し合ったロマンティックな味わいもあります。独唱曲、ピアノ曲、合唱曲などがあって「ドイツレクイエム」は、わたし達の合唱団でも歌いました。美しい曲を歌えることはとても幸せです。

S 西新 利子

♪ 宝塚混声って、宝塚市民でないといけないなんて思いませんか？そんなことはありません。

そういう私も大阪市からはるばる毎週1時間半もかけて練習に通っています。他にもいっぱいあるのに、どうしてかというのは、一緒に歌ったら、きっと納得されることでしょう。

アットホームでみんなやさしくて、何より歌うのが大好きで、そんな人達と一緒にきれいなハーモニーにするために練習できるなんて、素晴らしいと思いませんか。でも1つご注意！！大森先生のあまりの素敵な声に聞き惚れて、先生がおっしゃっていることより、ついつい声ばかり聞いてしまうこと。どんな声なのか聞いてみたくなったでしょう？一度練習を見学してくださいな。

A 大塚 ひとみ

♪ 1981年春に入団しましたので、今年でちょうど在籍20年になります。ショスタコーヴィチの「森の歌」から始まって、随分いろいろな歌を歌わせてもらいました。ひとつひとつの歌を一生懸命練習して演奏会に臨みました。だから、それらの歌は自分の財産だと思っています。自分にはとうてい歌えないと思っていた曲を教えてもらい、なんとか歌うことができた時、この団に入っていてよかったなとつくづく思いました。いろいろな経験もさせてもらいました。その中で最高の思い出は、ドイツに演奏会旅行に行ったことです。

20年も続けてこられたのは、歌うことが好きだからと同時に、先生友達家族に恵まれたことと感謝しています。さてこの後、私の財産はどのくらい増えるでしょうか。できることなら体力の続くかぎり歌い続けたいと思っています。

A 小林 昭子

♪ 今回の演奏曲目の第一印象は「美しい」ということでしょうか。中でも好きなのはVia Crucisです。聴くだけで涙がこぼれそうな繊細な曲です。清らかな気持ちで歌いたいものです。苦労したのは、臨時記号が多く音を取りづらかった木と鳥のエピグラムです。陰惨な曲だと思いました。けれど最後に湧き上がる希望の光の、なんと強いことか。あまりに眩しくてまた涙が出ました。聴いて下さる方にこの気持ちが伝わりますように、豊かなハーモニーを紡ぐことが出来ますように願っております。

A 中屋敷 浩子

♪ ハンガリー人 F. リスト 米国の民謡収集・編曲家 J. シルバーマンの「ハンガリー・ロシアのジプシー音楽集」は、アジア出身のロマ人の抒情性の高い、私の好みの歌を多く提供して呉れるが、ハンガリー西部(現在はオーストリア領)ドボリヤーン生まれのリスト(1811年生)は、ジプシーの大衆音楽を自国の民謡と勘違いし「ハンガリー狂詩曲」等作曲の中に大いに取り入れ、又著作集もあらわした。1年間をブダペスト、ワイマル、ローマとボヘミア的に民族音楽的作品の音楽活動を行ったリストは、64才の時新しく創立された王立音楽院の総長に任ぜられ、その3年後に「十字架の道」を発表している。「十字架」と「ラブソディ」との間に落差がかなり大きく、とまどいを感じる。今年3月、日本ゴールド・ディスク大賞にフジ子・ヘミングさんが受賞(奇跡のカンパネラ)されたが、リストの「ラ・カンパネラ」「ハンガリー狂詩曲」、ブラームスの「ハンガリー舞曲No5」は素晴らしいピアノ演奏であり、ハンガリー風味の音楽は、非常に日本人向けし、親しみやすい。T 植田 英幸

♪ 今回の音楽会は私が宝塚混声合唱団に入って以来初めての一大行事となります。心細さや期待の入り交じった心境です。以前より宗教曲を歌いたいという願望を持っておりました。リストの曲はあくまで静かで荘厳な響きの中にうつろい迷う心をいやす安らぎがあり、全身全霊に深く浸透していくようです。

又ブラームスの歌曲は趣が異なり、悠々と流れる川のように、少し哀愁をおびたもの悲しい雰囲気にも包まれています。練習の時、くり返し記号でどこに戻るのかと探しているうちに曲が終わってしまう程、意外にテンポが早く初心者としてはとまどう事たびたびです。この音楽会は心に残る体験になるだろうと楽しみにしています。

A 増本 正子

♪ 私が宝塚混声に入団して、早2年半が経ちました。思えば3年程前に短大の時の友人とコーラス部のOG会に参加した時から、混声とは赤い糸で結ばれていたようです。OGコーラスにはアルトの犬塚さんが、逆瀬川に住んでいるなら、練習場所なので、覗いて下さいね、ということで今の私があるという訳です。実は前からどこかの混声に入りたかったけれど、一人で参加する勇氣はありませんでした。運命の出会いを大切にしたいと想っています。

S 浦瀬 麻紀

♪ 歌うことはかつてはただの趣味に過ぎなかったけれど、いまでは歌はわたしにとってなくてはならぬもの、いつだってそこにあるもの、あって当然なもの、わたしを微笑ませ、涙を誘い、深い想いへと導いていく。

どどーど どどーど どどーどー … “又三郎が風に乗って飛んで行くんだ！” “遠い日の父の声。えびす顔と太い声。歌と又三郎が。おかげでわたし何十年も歌と宮沢賢治に引っ張られてやって来ました。

週一度の練習はコンサートの予定ほどにも心弾み、週一度の練習が日常に疲れた心身を元気づけ生き返らせてくれます。 大森先生の美しいオーラに感謝。練習場に通える丈夫な足腰に感謝。

衰えたとはいえまだ何とか使える喉に感謝。

A 武藤 明子